

J4R 期末発表・原稿 1

ヘザー・オコネル

カリフォルニア州立大学モントレイ校 3年・米国

J4R の期末発表のため、私は「嘘じゃない、フォントの話」という記事を選んだ。今、その記事について説明する。

まず、最初の段落を読んでみよう。『私たちが日々何気なく接している「文字」。実はこの「文字」、日本語だけでも千種類以上もの「フォント」があることをご存知でしょうか？「文字は性格を表す」と言われることもありますが、人によって書く文字の形が違いうように、印刷物やインターネット上で使われているフォントにもさまざまな性格や役割があります。そして同じ文章や言葉でさえ、使うフォントによって伝わり方が変わってくるのです。』

続いて、この記事は三つのセクションに分けている。

一つ目は『文字が変わればイメージも変わる！』と言う。このセクションには、フォントの例が三つある。例を見れば、よく分かるはずだ。例えば、例1の駅でよく見る一般的なフォントは、例2に比べて、あまり目立たなくて面白くない。なので、例1のフォントは普通の看板で使われている。一方、例2のフォントはポップのイメージで、渋谷によく似合いそうだ。

次は『「フォント」にはどんな種類があるんだろう？』というセクションだ。日本語には、基本的なフォントの種類が五つある。その種類は「明朝体」や「ゴシック体」、「丸ゴシック体」、「筆書体」、「ディスプレイ書体」と言う。フォントの種類はそれぞれ性格が異なっている。例えば、「ゴシック体」はシンプルで、「筆書体」は和風の感じがある。

最後のセクションは『5つのフォントの役割とは？』と言う。このセクションでは、フォントの特徴と役割が説明されている。例えば、「明朝体」の特徴は細い横線と太い縦線で、鱗というアクセントがついている。そして、真面目で堅いイメージがあるので、教科書などの本でよく使われている。一方、「ディスプレイ書体」は特徴が決まっていなくて、目的に似合うユニークな文字だ。たいてい、タイトルや目立つ言葉でよく使われている。

皆さん、よく考えてください。何かを読むとき、どんなフォントが使われているかと覚えられるのか。今度、五つのフォントの種類からどんなフォントがどんな役割に使われているか、確かめてみよう。

(897 字)

J4R 期末発表・原稿 2

ヘザー・オコネル

カリフォルニア州立大学モントレイ校 3年・米国

「嘘じゃない、フォントの話」という記事を選んだ理由は私の副専攻に関する。私の副専攻はグラフィックデザインやウェブデザインみたいに「コミュニケーションデザイン」という副専攻で、特にタイポグラフィーに興味を持っている。なので、タイポグラフィーについての記事を調べた。しかし、大学で英語の文字しか勉強しなかったの
で、選んだ記事のおかげで初めて日本語の文字を勉強した。

面白かった点がたくさんあるが、一番気になった点だけ説明する。それは、英語の文字と日本語の文字の似ているフォントである。この記事が言う通り、「明朝体」は真面目で、「ゴシック体」はシンプルだ。英語にも、似ているフォントがある。英語の明朝体は「セリフ」で、ゴシック体は「サンセリフ」と言う。この「セリフ」と「サンセリフ」は、日本の明朝体とゴシック体と同じように使われている。「セリフ」は真面目で、「サンセリフ」はシンプルだ。例えば、「セリフ」は読みやすいので本によく使われていて、「サンセリフ」はシンプルで遠くから見えるので看板によく使われている。

もう一つの面白かった点はこの記事の説明の方法だと思う。五つのフォントを説明した時、キャラクターも出てきた。そのキャラクターは関するフォントの特徴や役割を現したので、本当に分かりやすいと思った。

この記事には、賛成できない点の一つしかない。それはディスプレイ書体の役割だ。この記事によると、ディスプレイ書体はカジュアルな時に使われているが、私は真面目な時に使ってもいいと思う。ディスプレイ書体はユニークなフォントで、決まった特徴がないので、タイトルや目立つ言葉でよく使われているが、その目立つ言葉は真面目なメッセージを伝えたら、カジュアルなディスプレイ書体はふさわしくない。なので、真面目でユニークなディスプレイ書体もあった方がいいと思う。

(769 字)